

発展途上国における交通の発達と 日本の政府開発援助(ODA)の役割

コメンテーター：内山 久雄
(東京理科大学)

ODA(政府開発援助)とは 次の3つの要件を満たす資金の流れを指す

- (1) 政府ないし政府の実施機関によって供与されるもの
- (2) 開発途上国の経済開発や福祉向上に寄与することを主たる目的としていること
- (3) 資金協力については、その供与条件の開発途上国にとって、重い負担にならないようになっており、グラント・エレメント(G.E.)^{注)}が25%であること

注) G.E. 援助条件の穏やかさを表示するための指標
金利10%と仮定した商業条件の借款をG.E.0%、
完全な贈与の場合をG.E.100%としている。

ODAの内訳

- 無償資金協力
- 技術協力
- 国連諸機関・国際金融機関への出資・拠出
- 政府貸付

国際協力事業団 (JICA)

政府ベース技術協力の実施機関

研修員受け入れ、専門家派遣、材料供与など

国際協力銀行 (JBIC)

日本輸出入銀行と海外経済協力協会 (OECF) が99年に統合
円借款の供与、開発途上国で事業を行う企業への融資・出資など

開発援助委員会 (DAC)

OECDの下部組織で、援助の量的拡大、質的向上について援助
供与国間の意見調整を行う

ODA事業予算の推移

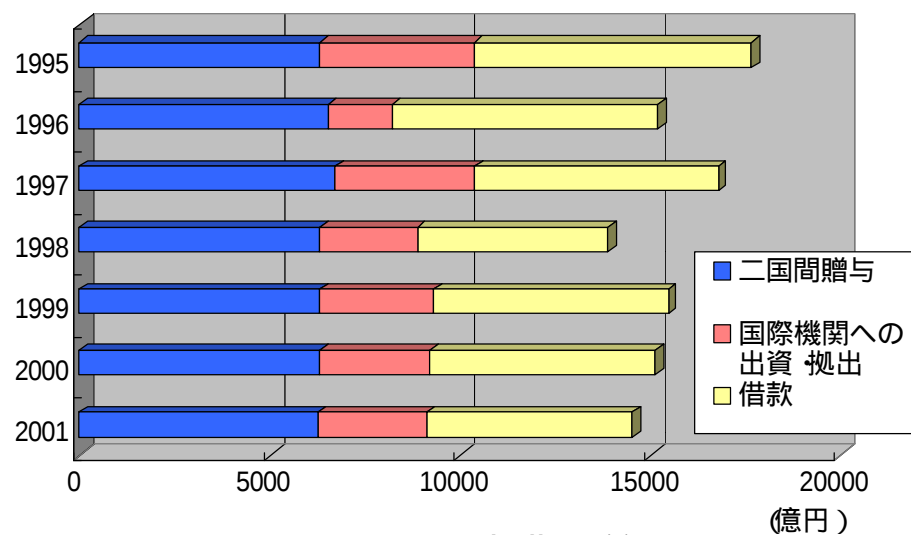


図1 ODA事業予算

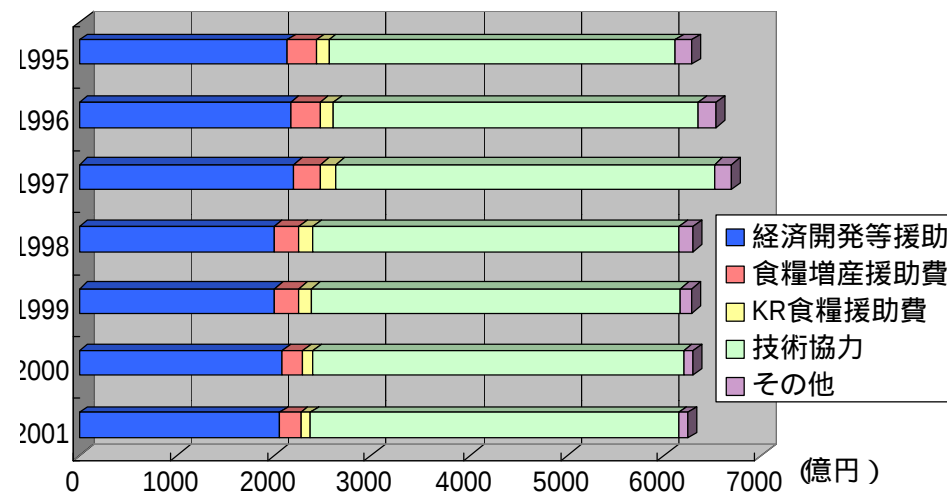


図2 二国間贈与内訳

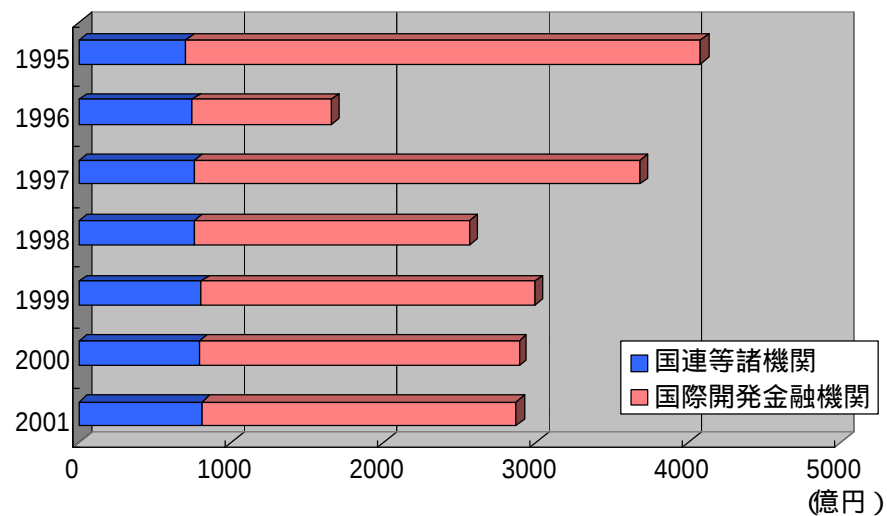


図3 国際機関への出資・拠出内訳

二国間ODA(地域別)

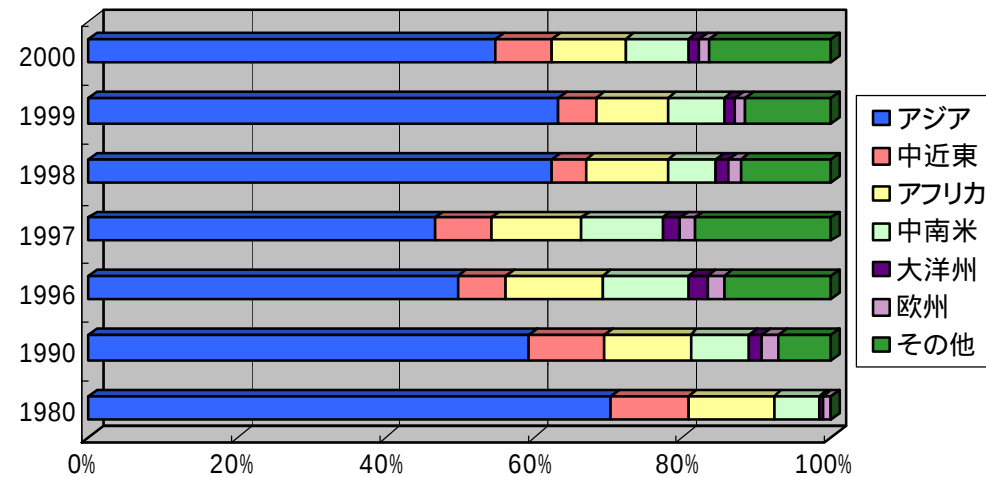


図4 地域別配分の推移

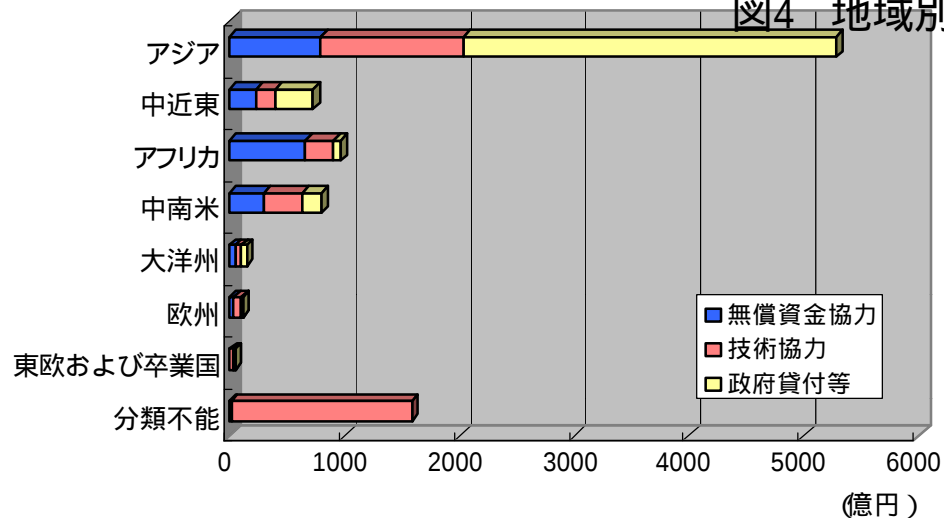


図5 地域別配分 (援助形態別・2000年)

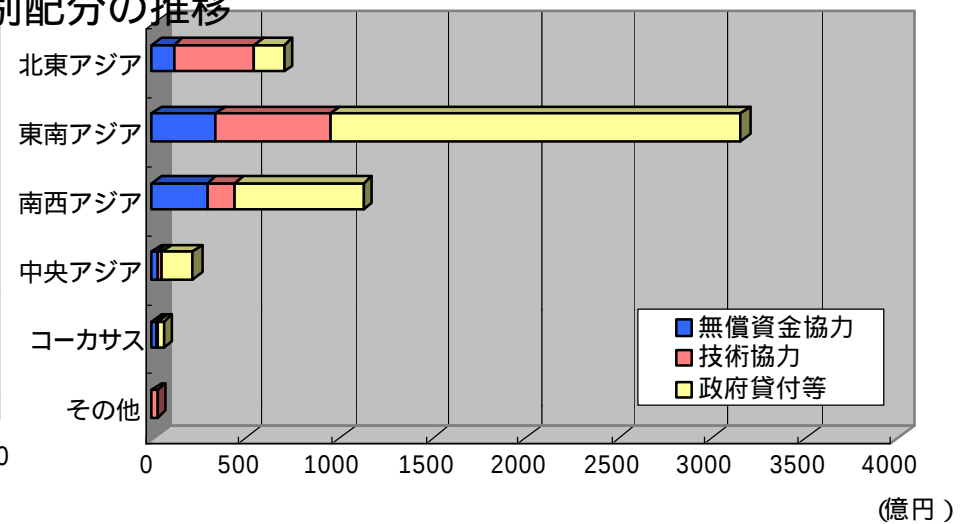


図6 アジア地域別配分 (援助形態別・2000年)

二国間ODA(分野別)

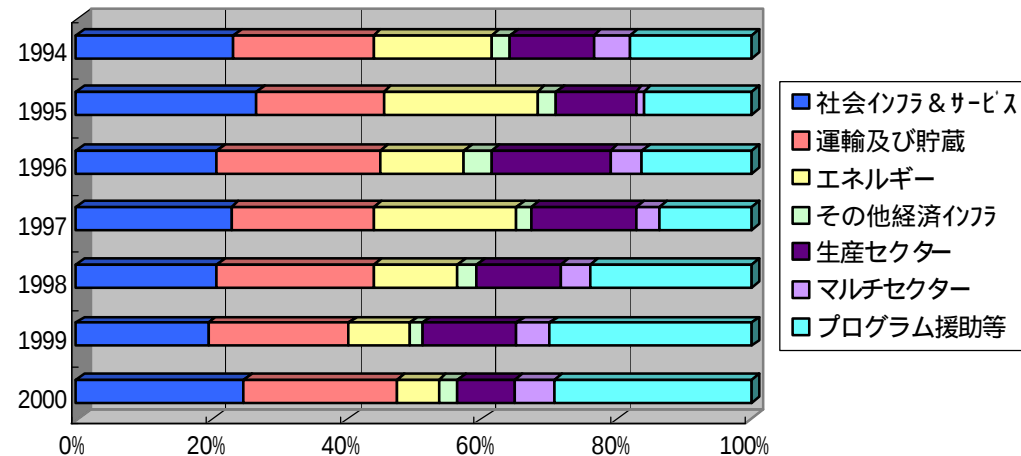


図7 二国間ODA 分野別配分の推移

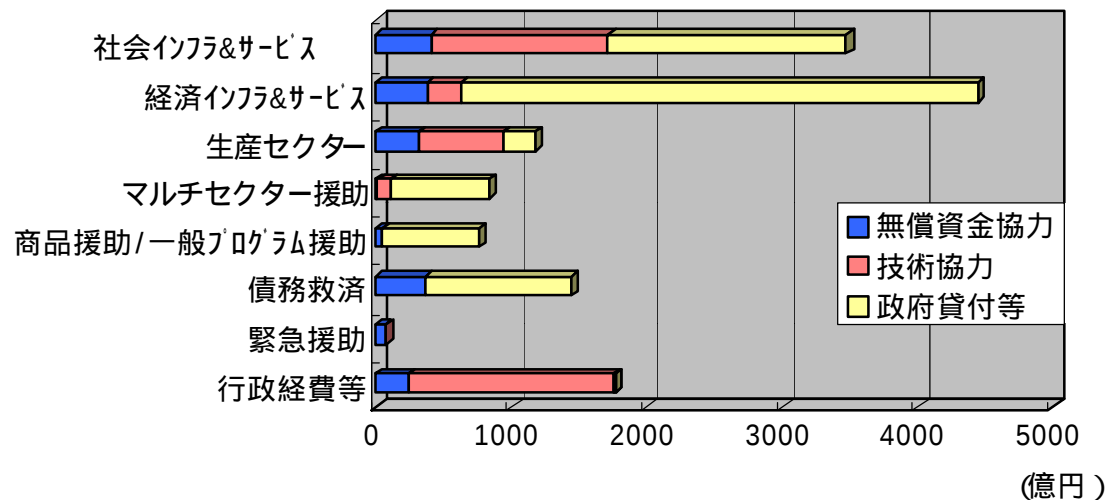


図8 二国間ODA分野別配分(2000年)

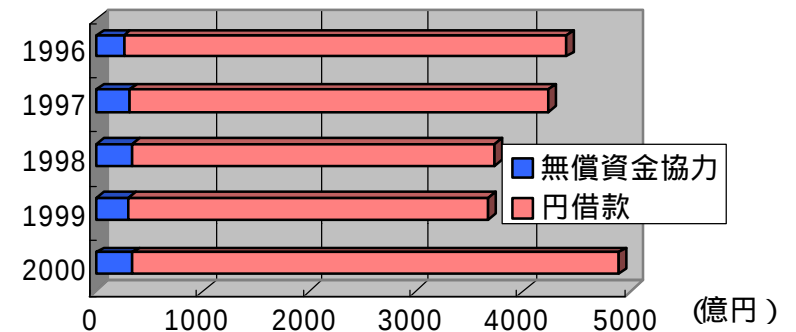


図9 運輸分野援助実績

二国間ODA(援助形態別)

1. 無償資金協力

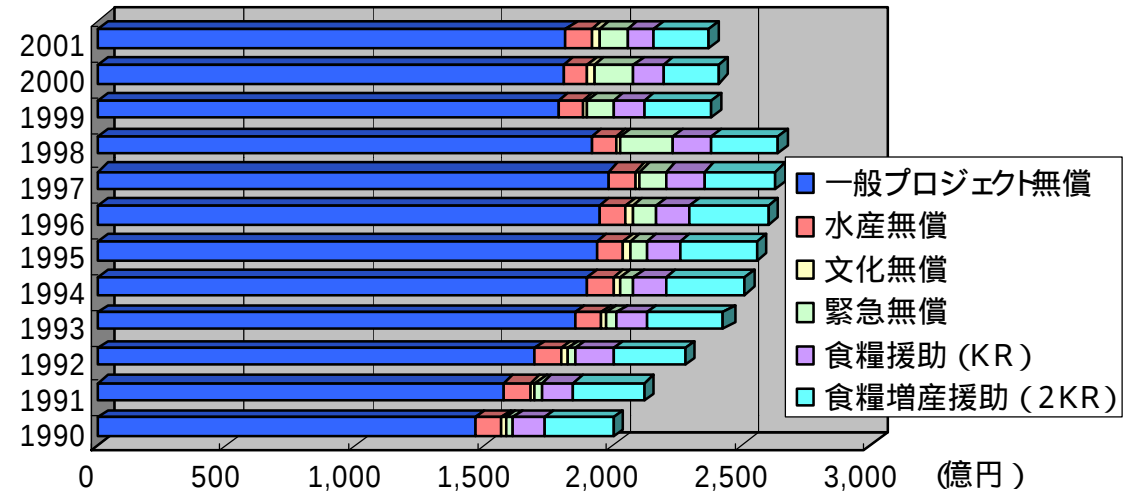


図10 無償資金協力事業予算の推移

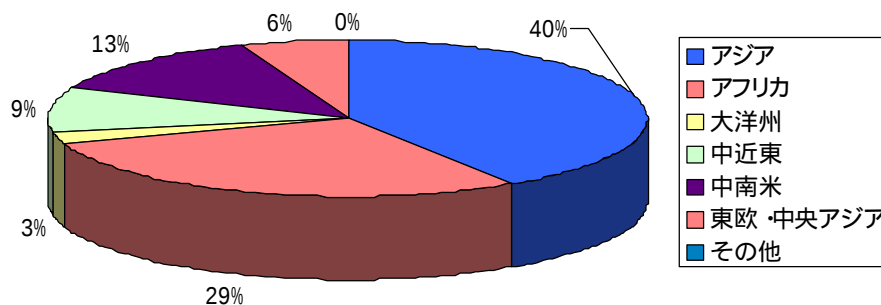


図11 2000年度無償資金協力地域割合

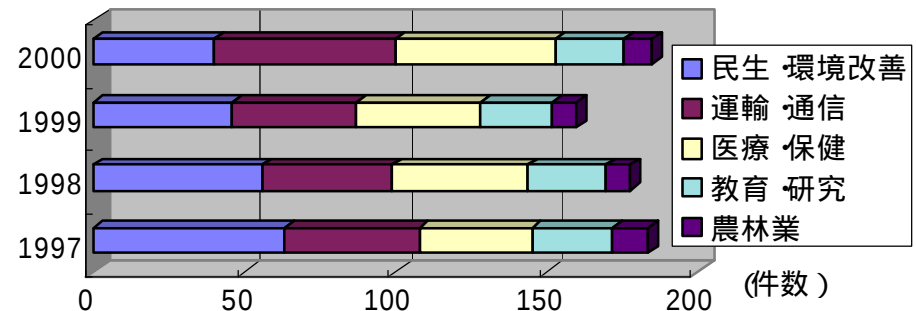


図12 一般プロジェクト無償資金協力の分野別件数

二国間ODA(援助形態別)

2. 技術協力

2.0 全般

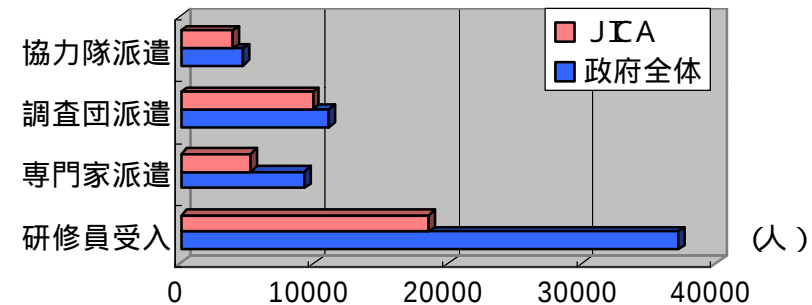


図13 技術開発・形態別人数実績(2000年)

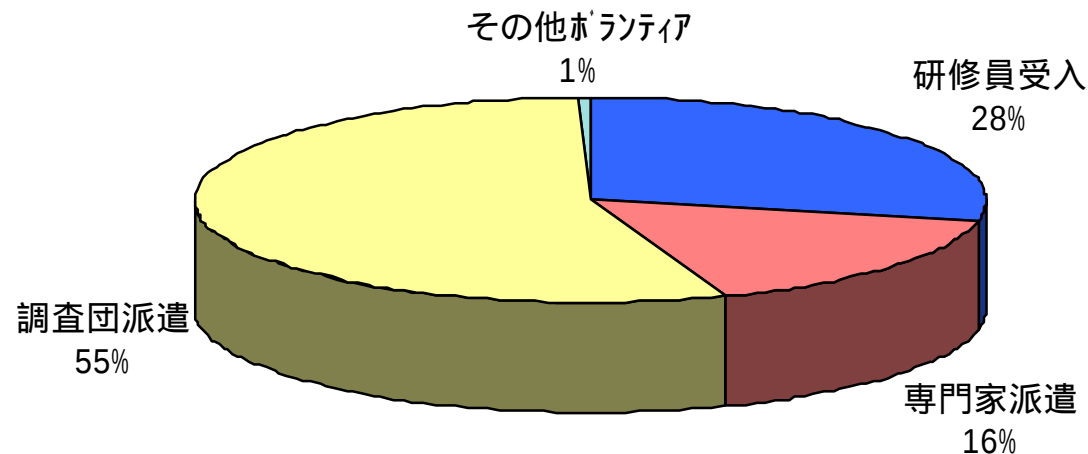


図14 運輸・交通分野における技術協力(人数ベース, 2000年)

二国間ODA(援助形態別)

2.1 研修員受け入れ

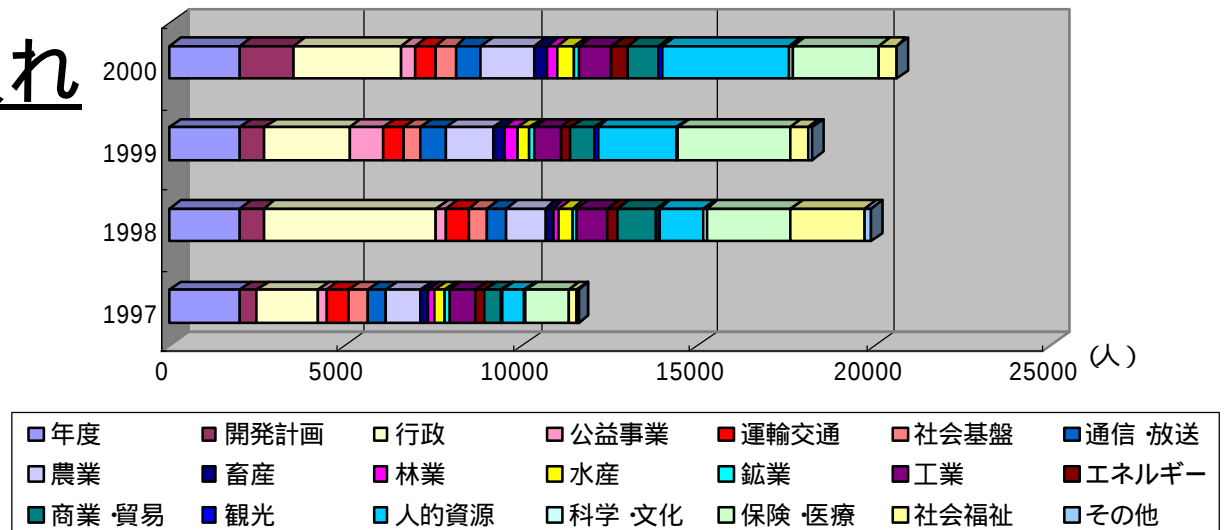


図15 研修員受入（分野別人数合計）

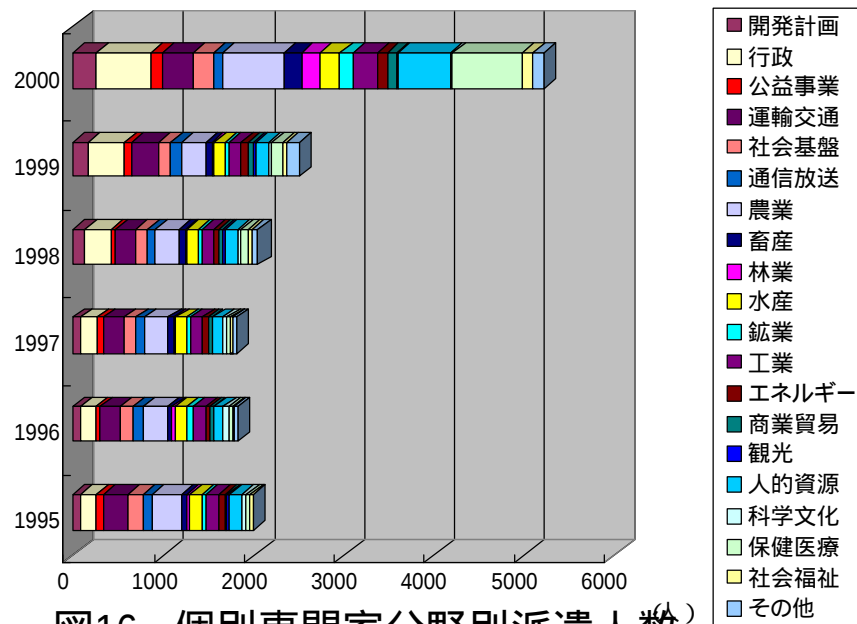


図16 個別専門家分野別派遣人数

2.2 専門家派遣

二国間ODA(援助形態別)

2.3 プロジェクト方式技術協力

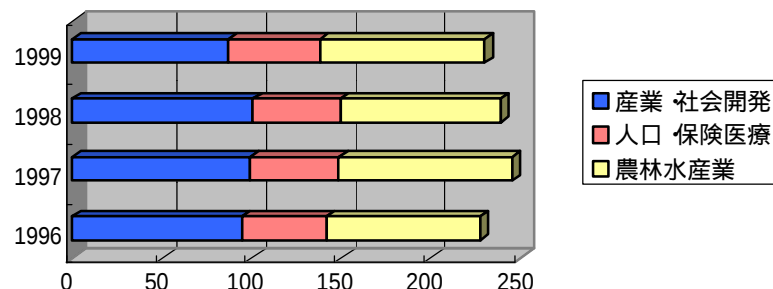


図17 プロジェクト方式技術協力(分野別・件数)

2.3 開発調査

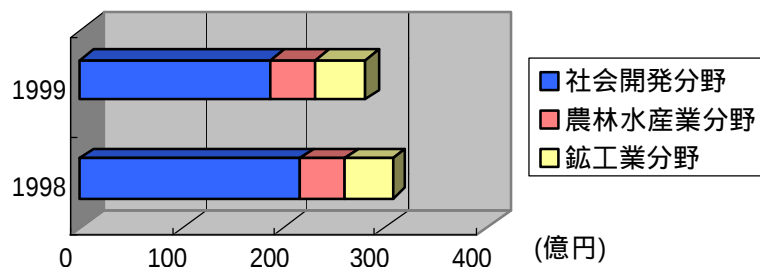


図18 開発調査事業(分野別・金額)

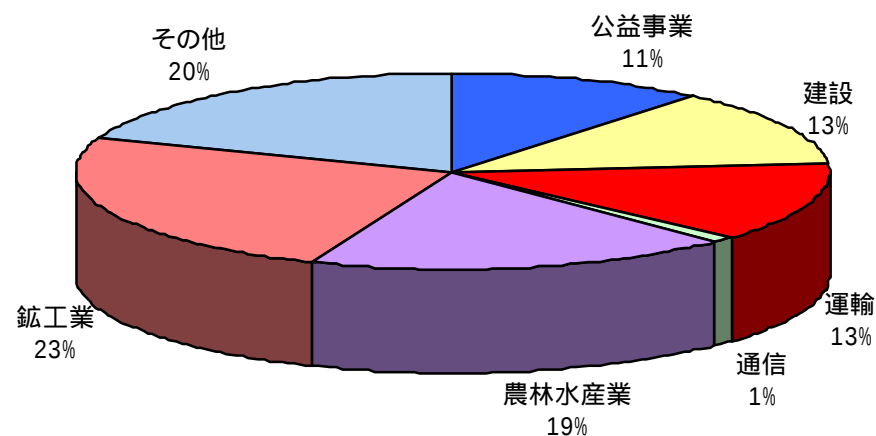


図19 開発調査の分野別割合(2000年)

二国間ODA(援助形態別)

3. 政府貸付等

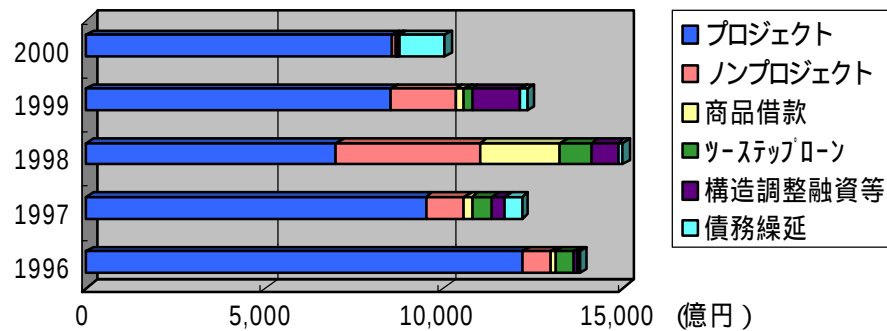


図20 有償資金協力・形態別実績

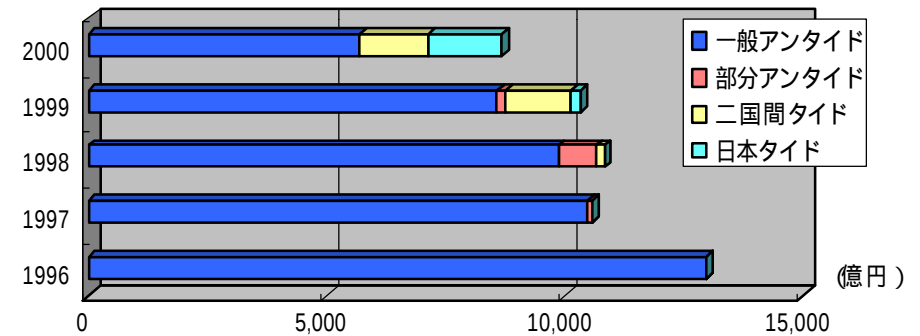


図21 有償資金協力・調達方式別実績

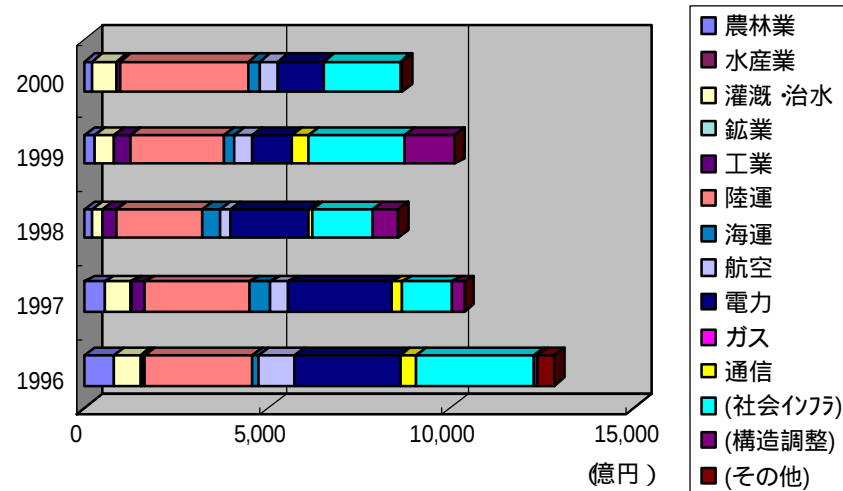


図22 有償資金協力・分野別実績

国際機関への出資・拠出

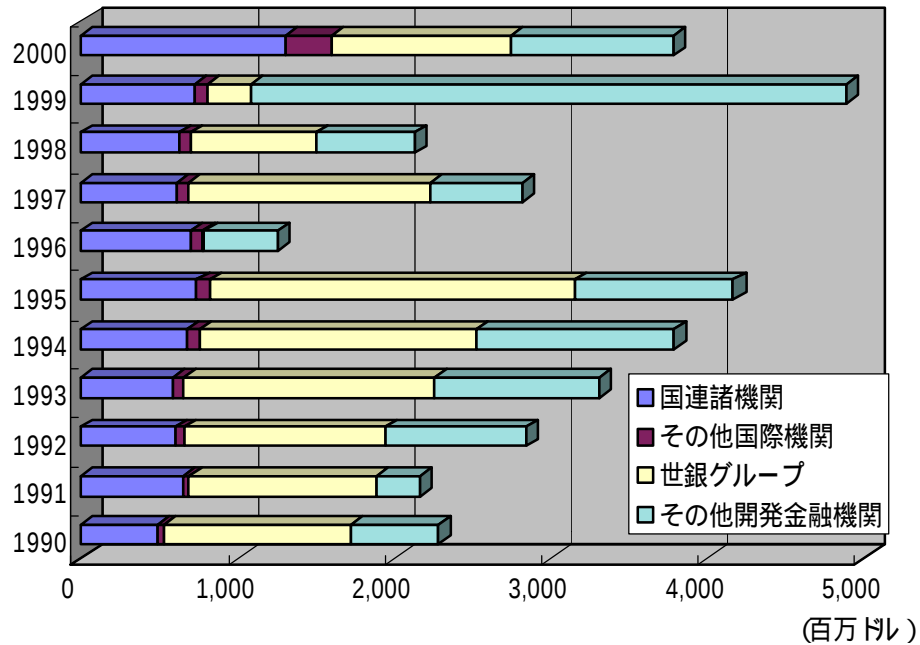


図23 国際機関に対するODA実績の推移

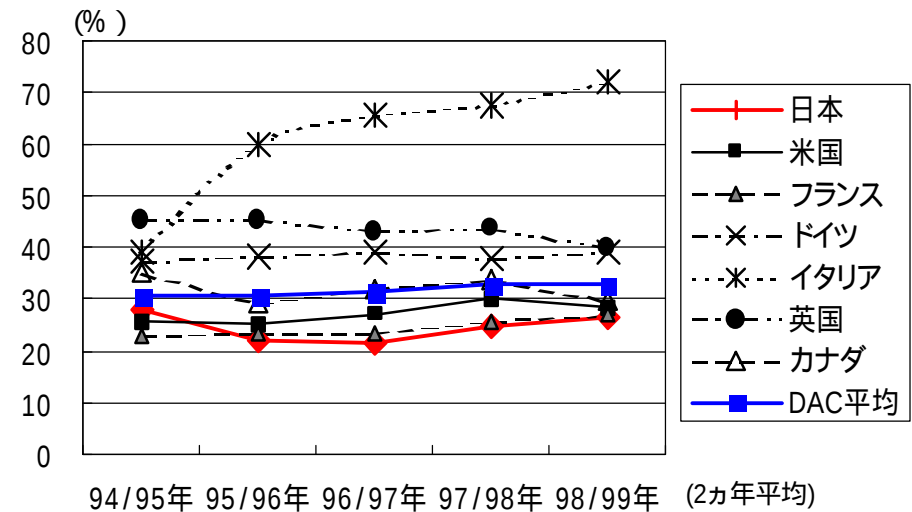


図24 ODA総額に占めるマルチ援助額の割合

要点

- Ownership (自助努力) と Capacity (能力)
- 欧米：条件ベース(参加も含めて)
日本：要請ベース(金太郎飴的)
- 草の根(Grassroots) 援助
- 顔の見える援助
- 援助タイプの異なる4つの事例
- ODA援助の3つの課題

4つの事例

1. バンコク新国際空港
2. ミンドゥリ道路建設
3. ベトナム交通安全調査
4. フィリピンNCTSプロジェクト

3つの課題

- **Project implementation and capacity building 実施と能力形成**
- **Cost effectiveness in ODA operation
ODA 運営の効率性**
- **ODA評価**

反 省

- ◆ 日本対外国は1対1ではない
(世銀は テクニカルディビジョンとリージョナルディビジョンの2次元で構成されている)
- ◆ 民間団体が草の根的なフットプリントを印すインセンティブがない
(ヨーロッパでの教会活動対護送船団方式 トロピカルエンジニアと呼ばれる日本の技術者数)
- ◆ アカウンタビリティ(精神的なプレゼンス)の欠落
(災害等の見舞いで資金援助の最大の国は？それを被援助国民は認識しているのか？)
- ◆ 外国に対して、同じ日本人同士人の禪で相撲をとれない
(縦割り社会の日本の特質、他の日本人の成果をまったく無視するか考慮に入れていない)